

井桁貞義氏 略歴

1948年5月 神奈川県に生れる。

(学歴)

1967年3月 東京教育大学（現・筑波大学）附属高等学校卒業
1968年4月 早稲田大学第一文学部入学
1972年3月 早稲田大学第一文学部ロシア文学専修卒業
1972年4月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程ロシア文学専攻入学
1974年3月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程ロシア文学専攻修了
1974年4月 早稲田大学大学院文学研究科博士課程ロシア文学専攻入学
1977年3月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程ロシア文学専攻退学

(職歴)

1974年6月 早稲田大学文学部助手
1977年4月 早稲田大学文学部専任講師
1980年4月 早稲田大学文学部助教授
1985年4月 早稲田大学文学部教授
2013年3月 早稲田大学文学部教授退職
2013年4月 早稲田大学名誉教授
2013年4月 早稲田大学文学部非常勤講師
2014年3月 早稲田大学文学部非常勤講師退職

なおこの間、東京大学、東京外国語大学、日本大学、札幌大学で非常勤講師を務めたほか、ネットワーク授業で苫小牧駒沢大学、江戸川大学、大分県立芸術文化短期大学などで非常勤講師を務めた。また、NHK テレビ「ロシア語会話」（1995～6年）、NHK ラジオ「ロシア語講座」（2006～7年）のテキスト執筆、講師を務めた。

井桁貞義氏 業績表

1970（昭和45）年

〔論文〕 <ポリフォニー>と<一個の幻>（「ピローク」第1号 早稲田大学露文科）

1971（昭和46）年

〔論文〕 発語について（I）（「ピローク」第2号 早稲田大学露文科）

〔翻訳〕 エヴニン「ドストエフスキイの文体と方法をめぐって」（「ピローク」第2号
早稲田大学露文科）

〔試論〕 私と他者 ドストエフスキイ試論（「ピローク」第3号 早稲田大学露文科）

1972（昭和47）年

〔著書〕『私・他者・世界：ドストエフスキイにおける〈意識〉の問題』（清信社）

〔翻訳〕 グローモフ「多言語の演劇（ソヴェート演劇概観）」（「ソヴェート文学」第
43号 群像社）

〔作品論〕『分身』論（「ドストエフスキイの会会報」第21号）

1973（昭和48）年

〔翻訳〕 ジェマイチス「アルタクセルクス」（「ソヴェート文学」第45号 群像社）

〔翻訳〕 チュコーフスキイ「マヤコーフスキイ」（「ソヴェート文学」第46号 群像社）

〔鼎談〕（石田敏治氏、内村剛介氏と）クロトカヤ（おとなしい女）とは誰か（「パイデ
ィア」第16号 竹内書店）

〔年譜〕 ドストエフスキイ年譜（「パイディア」第16号 竹内書店）

〔論文〕 意識から全部へ 地下室人とラスコーリニコフのあいだ（「ウオトカ」第 1 号）

〔研究会報告〕 ドストエーフスキイの〈私・他者・世界〉（「ウオトカ」第 1 号）

〔要旨と報告〕 第二回シンポジウム 『罪と罰』の〈世界〉（「ドストエーフスキイの会報」第 24 号）

1974（昭和 49）年

6 月 1 日より早稲田大学第一文学部助手（1977 年 3 月 31 日まで）

〔翻訳〕 アレクシン「未知の人々から手紙が来る」（「ソヴェート文学」第 47 号 群像社）

〔翻訳〕 スローヴィン「目撃者のない事件」（「ソヴェート文学」第 48 号 群像社）

〔翻訳〕 ローゼンブリュム「理想のもつ美との触れ合い（ドストエーフスキイの手帖から）」

／コーガン「原稿に描かれた作中人物の素描」（「ソヴェート文学」第 50 号 群像社）

〔エッセイ〕『悪霊』視劇記（「ドストエーフスキイの会報」第 30 号）

〔エッセイ〕ドストエーフスキイ研究・その現代的展開 1. 文体と詩学の研究 上（「ドストエーフスキイの会報」第 34 号）

〔書評〕ツヴァイク『三人の巨匠 バルザック・ディケンズ・ドストエーフスキイ』（「ドストエーフスキイの会報」第 31 号）

1975（昭和 50 年）

〔論文〕ドストエーフスキイ研究展望—最近約 10 年間のソ連・欧米を中心に 1 文

体と詩学をめぐる (「比較文学年誌」第 11 号 理想社)

[翻訳] ヤノーフスキ「永遠への手紙」(「ソヴェート文学」第 51 号 群像社)

[報告] 『罪と罰』読書会第三回 (「ドストエーフスキイの会会報」第 35 号)

[エッセイ] ドストエーフスキイ研究・その現代的展開 1. 文体と詩学の研究 中 (「ドストエーフスキイの会会報」第 35 号)

[エッセイ] ドストエーフスキイ研究・その現代的展開 1. 文体と詩学の研究 下 (「ドストエーフスキイの会会報」第 36 号)

[エッセイ] ドストエーフスキイ研究・その現代的展開 2. 諸文学との関りの中で 上 (「ドストエーフスキイの会会報」第 37 号)

[エッセイ] ドストエーフスキイ研究・その現代的展開 2. 諸文学との関りの中で 下 (「ドストエーフスキイの会会報」第 38 号)

[エッセイ] 「国際ドストエーフスキイ協会」のこと (「學鏡」6月号 丸善)

1976 (昭和 51 年)

[論文] ドストエーフスキイ研究展望—最近約 10 年間のソ連・欧米を中心に 2 いわゆる影響の受容体として (「比較文学年誌」第 12 号)

[論文] 「罪と罰」における聖書モチーフの使用について (「ロシア語ロシア文学研究」第 8 号) [書評] 新谷敬三郎『ドストエーフスキイと日本文学』(「ドストエーフスキイの会会報」第 40 号)

[書評] グアルディーニ『ドストエーフスキイ』(「ドストエーフスキイの会会報」第 42 号)

1977 (昭和 52) 年

4 月 1 日より早稲田大学第一文学部専任講師 (1980 年 3 月 31 日まで)

〔エッセイ〕 エレーナ：モスクワ — パリ（「ドストエーフスキイの会会報」第45号）

〔エッセイ〕 シラーとドストエーフスキイ（「ドストエーフスキイの会会報」第47号）

〔新聞記事〕 言葉の芸術家 ドストエーフスキイ 国際シンポジウムに参加して（「読売新聞」夕刊 10月11日）

〔書評〕 トゥイニャーノフほか（宮沢俊一訳）『評伝 ロシアの作家たち — プーシキン、レールモントフ、ツルゲーネフ、ドストエーフスキイ、チェーホフ、トルストイ』（「窓」第21号 ナウカ）

1978（昭和53年）

〔論文〕 シラーとドストエーフスキイ — 問題設定のために（「比較文学年誌」第14号）

〔エッセイ〕 海外の最近の諸研究（「ロシア語ロシア文学研究」第10号）

〔翻訳〕 ベローフ、トゥニャーノフ「ドストエーフスキイの妻との往復書簡」／クラソーフスキイ「ドストエーフスキイの記録文書」（「ソヴェート文学」第63号 群像社）

〔翻訳〕 プチーロフ「レフ・トルストイとミクルーホ・マクライ」（「ソヴェート文学」第65号 群像社）

〔座談会〕 開かれたドストエーフスキイ文学（江川卓、松本健一と「図書新聞」第1418号）

〔解説〕 ムイシュキンとマホメッド（「新潮社版全集発刊記念パンフ ドストエーフスキイ読本」新潮社）

〔報告〕 第三回国際ドストエーフスキイ シンポジウム報告（「えうゐ ロシアの文学・思想」第6号）

〔報告〕 国際ドストエーフスキイ学会より帰って（「ドストエーフスキイの会会報」第49号）

〔報告〕 第八回国際スラヴィスト会議に参加して（「ドストエーフスキイの会会報」第

53号)

[書評] 寺田透『ドストエフスキイを読む』(「ドストエーフスキイの会会報」第51号)

1979 (昭和 54) 年

[論文] ドストエフスキイとナポレオン — 一九世紀ロシア思潮のなかで (「理想」第552号理想社)

[報告] 第八回国際スラヴィスト会議に出席して (「比較文学年誌」第15号)

[書評] ナタリー・パーベル・ブラウン『ユーゴーとドストエフスキイ』(「ドストエーフスキイの会会報」第56号)

[書評] ナタリー・パーベル・ブラウン著『ユーゴーとドストエフスキイ』(「比較文学年誌」第15号)

[書評] A. ボイス＝ギブソン (小沼文彦, 広瀬良一訳)『ドストエフスキイの信仰』(「週刊読書人」1300号)

[書評] 中村健之介『ドストエフスキイ・作家の誕生』(「図書新聞」第1483号)

1980 (昭和 55) 年

4月1日より早稲田大学第一文学部助教授 (1985年3月31日まで)

[エッセイ] 「神話的な場所」とドストエフスキイ いかにか〈地下室人〉をこえるか (「早稲田キャンパス」4月1日号)

[報告] パネルディスカッション—ラスコーリニコフの罪と罰をめぐって (「ドストエーフスキイの会会報」第62号)

[エッセイ] ロシア語訳聖書をめぐって (「ドストエーフスキイの会会報」第63号)

[エッセイ] ドストエーフスキイとアフナーシエフ (「ドストエーフスキイの会会報」)

第 65 号)

1981 (昭和 56) 年

- [エッセイ] ロシア通信 — モスクワ発 (「ドストエーフスキイの会会報」第 67 号)
- [エッセイ] ロシア通信② — レニングラート発 (「ドストエーフスキイの会会報」第 68 号)
- [エッセイ] ソ連生活のドストエーフスキイ — 聖書をみたこと — (「ドストエーフスキイの会会報」第 69 号)
- [エッセイ] 日本のドストエーフスキイ文献解題 (「ソヴェート文学」第 78 号 群像社)
- [エッセイ] 「時代」誌について 1 発行時の文学状況 (「ドストエーフスキイ全集月報」第 19 号 筑摩書房)
- [新聞記事] ドストエーフスキイ・ルネッサンス ソ連で異例の全集 世界の精神的対話の共通語に (「読売新聞」夕刊 2 月 10 日)
- [書評] ワッサーマン (小沼文彦, 冷牟田幸子訳) 『ドストエーフスキイの「大審問官」』 (「図書新聞」第 1600 号)

1982 (昭和 57) 年

- [論文] ロシア・シンボリストにおけるドストエーフスキイ像 — В я ч . И в а н о в の近代批判を中心に (「ヨーロッパ文学研究」第 30 号 理想社)
- [エッセイ] 「時代」誌について 2 「土地主義」と現代 (「ドストエーフスキイ全集月報」第 20 号 筑摩書房)
- [エッセイ] 『カラマーゾフの兄弟』における象徴と神話 (「ドストエーフスキイの会会報」第 71 号)

〔書評〕文集『ドストエフスキ』(東大露文研究室)第1号・第2号(「ドストエフスキの会会報」第70号)

〔報告〕『第二回ソ連文芸シンポジウム日本側報告』(「ドストエフスキの会会報」第74号)

1983 (昭和 58) 年

〔論文〕ドストエフスキにおける〈分身〉モチーフについて — ロマン主義と象徴主義をつなぐもの — (文集「ドストエフスキ」第3号)

〔論文〕ヴォルテルとドストエフスキ — 「ロシアのカンディド」に関する覚え書 (「比較文学年誌」第19号)

〔論文〕 **Славянский фольклор в произведениях Ф.М.Достоевского / Comparative and Contrastive Studies in Slavic Languages and Literatures.**

〔翻訳〕チュコフスキ「芸術家」(「ソヴェート文学」第83号 群像社)

〔エッセイ〕「土地主義宣言」(「ドストエフスキの会会報」第76号)

〔報告〕第五回ドストエフスキ・シンポジウムの報告 (「ドストエフスキの会会報」第80号)

〔新聞記事〕スラヴを見つめる キエフで国際会議 交流深め着実な成果 (「読売新聞」夕刊 11月1日)

〔書評〕『ファウスト』(『ゲーテ選集』全10巻) (『ドストエフスキの会会報』第83号)

1984 (昭和 59) 年

〔論文〕大地 — 聖母 — ソフィア (「ドストエフスキ研究」第1号 海燕書房)

〔論文〕 ポー・ドストエフスキイ・アンドレーエフ — ロシア世紀末における〈我〉
とその変容（「比較文学年誌」第 20 号）

〔翻訳〕 ヴャチェスラフ・イワノフ 『『悪霊』の神話的基礎』（「ドストエフスキイ研究」第 1 号 海燕書房）

〔エッセイ〕 当世欧州露文研究事情（「ロシア手帖」第 18 号）

〔書評〕 ネクラソフ＝ゲルベリ版『ロシア諸作家訳シェイクスピア演劇作品全集』
第 4 巻（「ドストエフスキイの会会報」第 84 号）

1985（昭和 60）年

4 月 1 日より早稲田大学第一文学部教授（2004 年 9 月 15 日まで）

〔編集協力〕 指導：A. I. ボグダーノフ『新スラヴ・日本語辞典：日本版 / ゴン
ザ 原編；村山七郎 編』（ナウカ出版）

〔論文〕 ファウスト伝説のなかの『悪霊』（江川卓，亀山郁夫編著『ドストエフスキイ
の現在』JCA 出版）

〔論文〕 現代日本文学のなかのドストエフスキイ（「ドストエフスキイ研究」第 2
号）

〔エッセイ〕 デカダンスという方法（「ドストエフスキイの会会報」第 89 号）

〔報告〕 第 6 回国際ドストエフスキイ・シンポジウム（86.8.9-16）（「ドストエ
フスキイの会会報」第 90 号）

〔新聞記事〕 「世界で最初、の… ゴンザの露和辞典 250 年前、日本青年の手で」（「毎
日新聞」夕刊 4 月 8 日）

〔書評〕 雑誌「トルストイ研究」（「ドストエフスキイの会会報」第 92 号）

〔書評〕 中村健之介『ドストエフスキイ — 生と死の感覚』 / 江川卓『ドストエフス
キー』

(「ロシア語ロシア文学研究」第17号)

1986 (昭和 61) 年

[論文] ドストエーフスキイとピョートル大帝 — 〈ロシア文学にあらわれたピョートル像〉によせて (「ヨーロッパ文学研究」第34号)

[翻訳] ベローフ「ドストエーフスキイ最後の恋」(「ソヴェート文学」第96号 群像社)

[エッセイ] ポリカルポフとゴンザ・もう一つの接点——項目別ロシア語辞典の歴史をめぐって (「窓」第57号 ナウカ)

[エッセイ] ドストエーフスキイとSF的想像力 — ユートピアと終末の幻想をめぐって

(「ドストエーフスキイの会会報」第97号)

[書評] V. ネチャーエフ編著 (中村健之介編訳)『ドストエーフスキイ 写真と記録』(「図書新聞」第1812号)

1987 (昭和 62) 年

[論文] ロシア近代文学におけるユートピア・コードと終末のコード (「ロシア語ロシア文学研究」第19号)

[翻訳] ドストエーフスキイ「プーシキンについて」(「ソヴェート文学」第99号 群像社)

[エッセイ] 露呈したコードの先に (「ドストエーフスキイの会会報」第100号)

[書評] ローレンス『大審問官・序文』の謎 (「ロシア手帖」第25号)

[新聞記事] 視野広がるソ連の文学研究 イデオロギー偏重脱却 (「読売新聞」夕刊 7月16日)

1988 (昭和 63) 年

- [論文] 新しい方法論の原理をめぐって — ロシア 19 世紀文学 / ドストエフスキイ研究の四半世紀 (「ヨーロッパ文学研究」特集号・ヨーロッパ文学の現状と展望)
- [論文] **Иванов - Пумпянский - Бахтин** // Comparative and contrastive studies in Slavic language and literatures.
- [翻訳] 『ダニール・ハルムス作品集』(共訳 鴻英良) (S. D. ペシチ監督『ハルムスの幻想』映画パンフレット所収)
- [エッセイ] システム消費のあとに (S. D. ペシチ監督『ハルムスの幻想』映画パンフレット所収)
- [エッセイ] 〈シャガールの一世紀〉解説のコード (「ノーマル」第 1 号)
- [エッセイ] オベリウ — 言語の可能性 (「ノーマル」第 2 号)
- [追悼文] ローゼフ追悼 ロシアの神話研究を追う (「ノーマル」第 4 号)
- [エッセイ] アイトマートフ氏「外国文学」編集長に就任 三島の『金閣寺』の翻訳も予告 / メタ・テキストの伝統 アヴィニオンを席卷したワシーリエフ劇団 (「ノーマル」第 7 号)
- [エッセイ] 民藝公演『ドストエフスキイの妻を演じる老女優』によせて (「ノーマル」第 9 号)
- [エッセイ] オベリウの〈おかしさ〉— アンナ・ゲラシモフの論考を中心に (「ノーマル」第 10 号)
- [報告] 連続映画の現状をめぐって — 早稲田祭企画「ソビエト映画の過去と現在」(早稲田大学映画研究会シンポジウムでの報告) (「ノーマル」第 11 号)
- [エッセイ] オフル国夢だより (「ノーマル」第 13 号)
- [解説] ドストエフスキイの〈世界感覚〉(『全集黒澤明 月報』第 3 号 岩波書店)
- [年表作成] (新谷敬三郎, 柳富子と) ドストエフスキイ翻訳年表(独仏英米日) 1881

～1945（「比較文学年誌」第24号 別冊）

- 〔書評〕 ヴォイノーヴィチ『モスクワ 2042』（「ノーメル」第6号）
- 〔書評〕 作田啓一『ドストエフスキーの世界』（「ノーメル」第13号）
- 〔書評〕 作田啓一『ドストエフスキーの世界』（「北海道新聞」12月12日）
- 〔字幕〕 偉大な作家シリーズ ドストエフスキー（ビデオ ジェムコ）

1989（昭和64・平成1）年

- 〔著書〕『ドストエフスキイ』（Century Books 人と思想82 清水書院）
- 〔論文〕 Iwanow - Pumpianski - Bachtin // Przegląd humanistyczny. nr 6 s. (ポーランド語)
- 〔翻訳〕 ミハリョーフ「ソ連映画はどこへ向かうか」（「ノーメル」第31号）
- 〔エッセイ〕 オフル国夢だより 光の中で？／ガーチェフ待望（「ノーメル」第16号）
- 〔報告〕 文学研究のモスクワ1 到着したら（「ノーメル」第19号）
- 〔報告〕 モスクワ通信 バフチンの命日に集う（「ノーメル」第20号）
- 〔報告〕 モスクワ通信2 メレチンスキイ氏の神話学講義（「ノーメル」第21号）
- 〔報告〕 文学研究のモスクワ2 モスクワ大学の概要（「ノーメル」第22号）
- 〔報告〕 文学研究のモスクワ3 モスクワ大学の授業（「ノーメル」第23号）
- 〔エッセイ〕 シンポジウム以後（「ノーメル」第25号）
- 〔エッセイ〕 オデッサ物語（「ノーメル」第26号）
- 〔報告〕 文学研究のモスクワ4 1989年3月～7月（「ノーメル」第27号）
- 〔報告〕 文学研究のモスクワ 最終回 文学研究の方向／現代ソ連文化読解のために（「ノーメル」第29号）
- 〔報告〕 シンポジウムの記録 第一回タルコフスキイ・シンポジウム ―〈境界領域〉の映画―（「ソヴィエト研究所ビュレティン」第6号）
- 〔エッセイ〕 配給券とメルセデス（「チャイカ」第13号）

[エッセイ] スターラヤ・ルッサの「ドストエフスキイ小学校」の歴史（「ドストエフスキイの会会報」第111号）

[新聞記事] 開かれたソ連社会の一里塚 タルコフスキー国際シンポに参加して（「朝日新聞」夕刊 5月25日）

[新聞記事] 激動するソ連文化界 20世紀各国文化が混在（「読売新聞」夕刊 12月1日）

[書評] ゴロソフケル（木下豊房訳）『ドストエフスキーとカント』（「比較文学」第32号）

1990（平成2）年

[雑誌記事] 『非常事態のソ連：ソ連人によるソ連社会の病状報告!』（別冊宝島118 JICC 出版局）

[翻訳] 「ポストモダニストの社会主義リアリズム論 リモーフへのインタビューから」（「ノーマル」第41号）

[翻訳] 「西側はわれわれを待っているのか？」（『モスクワ・ニュース』の記事）（「ノーマル」第43号）

[翻訳] 「不死の愛」ペトルシェーフスカヤへのインタビューから（「ノーマル」第44号）

[翻訳] 「キャバレーの復活」（『アガニョーク』誌の記事）（「ノーマル」第45号）

[翻訳] ダニール・ハルムス「老婆」「小品集」（「あず」第5号）

[報告] 第一回国際タルコフスキー・シンポジウム（「WAVE」第26号 ペヨトル工房）

[雑誌記事] 世界のことば(83) ロシア語（「Asahi Journal」8月24日号 朝日新聞社）

[エッセイ] ガーチェフとロシア民族のアイデンティティ（「ノーマル」第34号）

[エッセイ] 教室から アルハンゲリ斯克・ジャズ・フェスティバルのビデオを見て

(「ノーマル」第46号)

[インタビュー] ロマーン・コーザク 言葉のサーカス芸人たち (「あず」第5号)

[インタビュー] 想 にんげんいんたびゅう 「ロシア・ソビエト・カルチャー・データベース」主宰、早大教授井桁貞義さん (「産経新聞」11月22日)

1991 (平成3) 年

[監修] 映像資料『クレムリン宮殿 華麗なる歴史の楼閣 : The Kremlin kpemjib』

(パイオニア LDC)

[編著] 『ソビエト・カルチャー・ウォッチング』(季刊「窓」別巻 窓社)

[論文] 民話から小説までのプロット研究の課題 (藤沼貴 編著『ロシア民話の世界』所収)

[翻訳] マムレーエフ「生ける死」/ベルンシュテイン「都会の散策」(「現代詩手帖」

5

月号 思潮社)

[翻訳] ツヴェトーフ「日本:文化の高い価値(ソ連に伝えられた現代日本)」(「ノーマル」第48号)

[翻訳] 「グレベンシコフ近況ーロックは死んだ、だがわれわれは」(「アガニョーク」誌の記事) (「ノーマル」第49号)

[翻訳] カザコフ「ウラジーミル・カザコフとの出会い」(「ノーマル」第50号)

[エッセイ] ついに出版された『ソビエト・カルチャーウォッチング』(「ノーマル」第50号)

[エッセイ] 50号を越えたソ連文化情報紙 (「早稲田学報」10月号)

[エッセイ] 歴史 — 物語 — 時間 ロシア文学の(いま)を語る (『ソビエト・カルチャー・ウォッチング』季刊「窓」別巻 窓社)

[解説] 人間的な『カラマーゾフの兄弟』(映画:『少年たち — 『カラマーゾフの兄弟』

より』パンフ所収)

[エッセイ] 文学の時代の終わりと始まり — 伝統のなかの現代ロシア散文展望

(「ユリイカ」5月号 青土社)

[エッセイ] 現代ソ連の文化はどこから来てどこへ向かうか — 地下水脈を追って

(「現代詩手帖」5月号 思潮社)

[解説] ペレスロイカの黙示録：カバコフ (小宮山俊平訳) 『ノーリターン：1993年・

モスクワ』(新評論)

[エッセイ] ロシア語：朝日ジャーナル編『世界のことば』(朝日選書 436 朝日新聞社)

[インタビュー] 民衆のもっている宗教心 — ドストエフスキーの確信 (「文学と宗教」の読み方) (「潮」7月号 潮出版社)

[エッセイ] なんて自由な音楽! (「太陽」10月号 平凡社)

[エッセイ] プルドーザーが消えた後に (「太陽」11月号 平凡社)

[エッセイ] 『プーシキン館』というテキスト (「太陽」12月号 平凡社)

[新聞記事] ソ連文化ウォッチング 最新報告を集めて情報紙づくり 3年 (「読売新聞」夕刊 4月23日)

[新聞記事] “文芸復興”期のソ連 カルチャー・ウォッチング中間報告 (「産経新聞」5月20日)

[新聞記事] ソ連混乱、証券界に教訓——不公正生む「規制下の競争」(「日本経済新聞」8月21日)

[新聞記事] ソ連の文学・芸術はいま ルネサンスと混迷と文学 (「京都新聞」10月9日)

[新聞記事] ロシア精神「復活」の道程 映画「少年たち」のメッセージ (「産経新聞」夕刊 11月27日)

[書評] ベック (前田勇訳) 『左遷 新しい任務』(「図書新聞」第2049号)

[エッセイ] 待望の『シンフォーニア』はどうやら決定版らしい (「ノーメル」第50号)

[エッセイ] モスクワ主教管区による『シンフォニア』出版をめぐって (「ソヴィエト研究所ビュレティン」第15号)

1992 (平成4年)

[論文] **Тарковский в Японии** // Киноведческие записки. No. 14. М.

[論文] 世界イメージの比較研究序説 — チュッチェフ／タルコフスキイ／ガーチェフ (「比較文学年誌」第28号)

[論文] ポリフォニイ小説論の成立過程 — ルネサンス批判と古代芸術論 (イワノフ — プンピャンスキイ — パフチン) (『交錯する言語: 新谷敬三郎教授古稀記念論文集』所収)

[翻訳] ソクーロフ「現代ロシアの映画と文化」(「ノーメル」第59号)

[翻訳] (長縄光男, 御子柴道夫監訳) イヴァーノフ「われらの言語」／コトリャレーフスキイ「健康を取り戻す事」／ベルジャーエフ, イヴァーノフ, フランクほか『深き淵より』(『ロシア革命批判論文集2』現代企画室)

[追悼文] 追悼 深見弾さん (「ノーメル」第57号)

[エッセイ] ハールムスをめぐる最近の動き (「ノーメル」第57号)

[退職教授追想] 新谷敬三郎先生を送る (「ヨーロッパ文学研究」第39号)

[座談会] 教員の夢を語る「人間と人間が向かい合って」(「りてら」第22号 早稲田大学文学部)

[書評] 池田大作, C. アイトマートフ 共著『大いなる魂の詩』／中村喜和編訳『ロシア英雄叙事詩 ブィリーナ』(「ノーメル」第56号)

[書評] 池田大作, C. アイトマートフ 共著『大いなる魂の詩』(「潮」7月号 潮出版社)

[書評] 中村喜和編訳『ロシア英雄叙事詩 ブィリーナ』(「週間ポスト」7月10日号 小学館)

〔書評〕 V. エロフェーエフ (千種堅訳) 『モスクワの美しいひと』 (「ノーマル」第 58 号)

〔書評〕 V. エロフェーエフ (千種堅訳) 『モスクワの美しいひと』 (「産経新聞」7月 20 日)

〔書評〕 森洋子 『ブリュージュの謎の世界』 (「ことわざ研究会会報」第 17 号)

〔書評〕 ナボコフ 『ロシア文学講義』 (「産経新聞」夕刊 12 月 7 日)

1993 (平成 5) 年

〔著書〕 (共著: 山崎紀美子) 『こんにちわ、ロシア語』 (くろしお出版)

〔エッセイ〕 ロシアのなかのユダヤ文化 (「ノーマル」第 60 号)

〔エッセイ〕 沈黙すること、語ること: 1992 年の文学シーンから (「ノーマル」第 62 号)

〔雑誌記事〕 ハールムス現象 (「NHK テレビ・ロシア語会話」12・1 月号)

〔エッセイ〕 ポップ・カルチャーへの招待 (「ロシア手帖」第 37 号)

〔エッセイ〕 若者たちの比較文学 (「比較文学年誌」第 29 号)

〔事典項目〕 「ロシア文学」 (『ブリタニカ国際年鑑』 TBS プリタニカ)

〔書評〕 A. & B. ストルガツキイ (中沢敦夫訳) 『モスクワ妄想倶楽部』 (「図書新聞」2676

号)

〔書評〕 斎藤君子 『シベリア民話への旅』 (「週刊読書人」第 1980 号)

〔書評〕 「対話する神秘劇」: ミロラド・パヴィチ 『ハザール事典』 (「早稲田文学」10 月号)

〔書評〕 ズーエフ 『ブラックボックス』 (「NHK テレビ・ロシア語会話」8・9 月号)

〔書評〕 アナトーリイ・キム 『ケンタウロスの集落』 (「NHK テレビ・ロシア語会話」

10-11

月号)

1994 (平成 6) 年

[編著]『199X年のユートピア・ヴィジョン: 早稲田大学文学部学生 385人の「理想郷」比較論』(阿部出版)

[論文]『レ・ミゼラブル』『罪と罰』『破戒』—フランス・ロシア・日本を貫くもの(想像力のために)—(「ドストエーフスキイ広場」第4号)

[論文] 20世紀芸術のなかのソビエト文学(「ユーラシア研究」第2号 東洋書店)

[事典項目]「ロシア文学」(『ブリタニカ国際年鑑』TBSブリタニカ)

[エッセイ] 若者たちの比較文学アンケート(「比較文学年誌」第30号)

[エッセイ] 若い知性を求めるロシア文学(「蛭雪時代」臨時増刊 学部学科案内号)

[雑誌記事] ペトルシェーフスカヤ 現代のおとぎばなし(「NHK テレビ・ロシア語会話」4・5月号)

[エッセイ]「表現の自由」私考—知的労働者とペレストロイカ:I ゲオルギイ・ガーチェフ氏の場合—複数世界像・歴史の可能性をめぐって/II スヴェトラーナ・セミョーノワさんの場合—宇宙論というロシア文化の本領/III コーリャの場合—抵抗する信仰者/IV ボリス・グレベンシコフの場合—ロックから修道院への道/V ドミートリイ・ガルコーフスキイの場合—八〇年代人による権力対自由批判(「ロシア研究」第18号 国際問題研究所)

[エッセイ] ペレストロイカを超えて(「MUSIC TODAY」第20号)

[新聞記事] 若者たち「聖書の世界」に強い関心 早大文学部の総合研究(こころ)(「朝日新聞」夕刊 3月15日)

[新聞記事] 点景 現代の若者がイメージする「理想郷」(「産経新聞」11月2日)

[新聞記事] 現代大学生の「ユートピア」 早大の385人の声、本に(こころ)(「朝日新聞」夕刊 12月13日)

〔書評〕セミョーノワ、ガーチェフ編著『ロシアの宇宙論集成』（「読売新聞」夕刊 2月28日）

〔書評〕ナールピコワ『選集、または、ざわめきはささやく』（「読売新聞」6月20日）

〔書評〕ゴロヴァニーフスカヤ『プライベート・コレクション』（「NHKテレビ・ロシア語会話」2-3月号）

〔書評〕ラヴローフ『血塗られた断頭台』（「NHKテレビ・ロシア語会話」6-7月号）

〔書評〕エフトゥシェンコ『死が来る前に死なないで』（「読売新聞」4月25日）

〔書評〕エフトゥシェンコ『死が来る前に死なないで』（「NHKテレビ・ロシア語会話」8-9月号）

〔書評〕ペレーヴィン『青いライト』（「ノーマル」第67号）

〔書評〕ペレーヴィン『青いライト』（「読売新聞」8月22日）

〔書評〕ペレーヴィン『青いライト』（「NHKテレビ・ロシア語会話」10-11月号）

〔書評〕ヴォーロホフ『目隠し鬼ごっこ』（「読売新聞」10月17日）

〔書評〕ヴォーロホフ『目隠し鬼ごっこ』（「NHKテレビ・ロシア語会話」12-1月号）

〔書評〕クリチェフスキイ『赤い悪魔たち』（「読売新聞」12月13日）

1995（平成7）年

〔放送テキスト〕「NHK テレビ・ロシア語会話テキスト」（日本放送出版協会 1995-1997年）

〔著書〕（共著：山崎紀美子）『ロシア語，次のステップ』（くろしお出版）

〔共編〕（共編：本間暁）『ドストエフスキイ文献集成』第1-11巻（大空社）

〔論文〕ドストエフスキイ『罪と罰』に描かれた聖書（小山宙丸編著『聖書をめぐる九つの冒険』ネスコ出版）

〔論文〕教養小説の形式による現代ロシア散文論 ―新たな生の獲得に向かって―

『スラブの世界：学際的研究へのアプローチ』 北海道大学スラブ研究センター)

[雑誌記事] 静かに確実に変わる文学の姿 (「NHK テレビ・ロシア語会話」2-3月号)

[新聞記事] 現代のユートピア 井桁貞義さんと読者が考える(こころ)(「朝日新聞」
夕刊 3月14日)

[新聞記事] 等身大のロシア人描く 東京で公開中 2 監督のソビエト期作品 (「読売
新聞」夕刊 6月5日)

[新聞記事] 「プレイボーイ」ロシア版 順調な経済復興を予感 (「読売新聞」8月13
日)

[書評] ナールピコワ『ロシア小説の現在』(「スラブ・ユーラシアの変動」領域研究
報告輯2)

[書評] サドゥール『魔女の涙』(「読売新聞」4月17日)

[書評] エプシュテイン編著『新興宗教』(「読売新聞」6月11日)

[書評] ウラーソフ『新ロシア迷信辞典』(「読売新聞」12月17日)

[書評] ロシア文学研究所編『ドストエフスキイの生活と創造の年代記』(「読売新
聞」2月20日)

[書評] 安藤厚, 浦井康男, 望月哲男編著『ドストエフスキー『罪と罰』コンコー
ダンス(文脈つき用語索引)』(「ロシア語ロシア文学研究」第27号)

1996(平成8)年

[共編](共編:本間暁)『ドストエフスキイ文献集成』第12-22巻(大空社)

[著書]『マルチメディアは文学を変えるか』(大日本印刷 ICC 本部「メディアアスケ
ーブ研究フォーラム」)

[著書]『現代ロシアの文芸復興』(群像社)

[追悼文] 新谷先生を偲んで(「ロシア語ロシア文学研究」第28号)

[解説] ドストエフスキイ文献集成解説(『ドストエフスキイ文献集成』第22巻)

- [新聞記事] ドストエフスキイの呪縛 『ドストエフスキイ文献集成』全22巻刊行にあたって (「図書新聞」2280号)
- [新聞記事] インターネットによる座談会 インターネット時代のことわざ (ウィリー・ヴァンドゥワラ, 北村孝一, ジャミニ・ヤダブと) (「図書新聞」第2312号)
- [事典項目] **1995年のロシア文学** (『ブリタニカ国際年鑑』 TBSブリタニカ)
- [新聞記事] わが国の『ドストエフスキイ文献集成』第1期分11巻を刊行 (「産経新聞」2月18日)
- [新聞記事] ドストエフスキイ問題 近代の軌跡問う精神的大きさと深さ (「聖教新聞」3月5日)
- [新聞記事] 現代ロシアの文化 大変動の中、全分野(ジャンル)が活性化 (「聖教新聞」7月9日)
- [新聞記事] 地方の小都市に出張した男が不条理な犯罪の犯人に仕立てられ (鐘) (「日本経済新聞」夕刊 7月15日)
- [新聞記事] ゴンザの露和辞典、260年ぶり里帰り ロシアへ漂流した薩摩の少年 (「朝日新聞」夕刊 9月18日)
- [新聞記事] ロシアはこれからようやくポップの時代にはいる (鐘) (「日本経済新聞」夕刊 10月7日)
- [書評] ペレーヴィン『青いライト』/エブシュテイン編著『新興宗教』(「ロシア文学の現在」「スラブ・ユーラシアの変動」領域研究報告輯7)
- [書評] クレイド編著『ロシア亡命詩撰』(「読売新聞」4月7日)
- [書評] ストリャローフ『月下の僧』(「読売新聞」6月2日)
- [書評] バック編著『ロシア・アヴァンギャルドの映画ポスター』(「読売新聞」8月11日)
- [書評] ザハーロフ編著『18-20世紀ロシア文学のなかの聖書テキスト』(「読売新聞」10月20日)
- [書評] 中村健之介『宣教師ニコライと明治日本』(「比較文学」第39号)

[書評] プリーシヴィン (太田正一訳) 『森と水と日の照る夜 セーヴェル民俗紀行』
(「週刊読書人」第 2144 号)

1997 (平成 9) 年

[論文] 現代ロシアとポストモダン — ソヴィエト文化の再評価をめぐって (「早稲
田大学大学院文学研究科紀要」第 42 号・第 2 分冊)

[エッセイ] ロシア映画の現在 —最近 10 年間の変化を追って— (「ロシア文化の新
しい世界」北海道開発問題研究調査会)

[事典項目] 「ヴレーミャ」「エポーハ」「市民」(『世界文学大事典 5 事項』集英社)

[新聞記事] “新しい社会” への夢想—ロシア正教修道院を訪れて (「産経新聞」夕刊
10 月 11 日)

[新聞記事] 宗教回帰のロシア モスクワ建都 850 年、文学の旅にて (「読売新聞」
夕刊 12 月 4 日)

[書評] 思い出の三冊、私の書棚から: 1 『永遠の太陽』(ユートピに関するアン
ソロジー) / 2 ダニール・ハールムス『天空への飛翔』 / 3 ザハーロフ 編
著『18・20 世紀ロシア文学のなかの聖書テキスト』(「窓」第 100 号)

[書評] 山田和夫『ロシア・ソビエト映画史』(「キネマ旬報」4 月上旬号)

[書評] ロシア科学アカデミー編『二十世紀末のロシア語』(「読売新聞」1 月 12 日)

[書評] チフヴィンスカヤ『ロシアのキャバレーと小劇場』(「読売新聞」3 月 23 日)

[書評] セミョーノヴァ、ガーチェヴァ編著『ロシアの宇宙精神』(「週刊読書人」第
2178 号)

1998 (平成 10) 年

[翻訳] (一部共訳: 草野慶子) シチェルバートフ「オフィル国旅行記」 / スマロー
コフ 「〈幸福な社会〉の夢」 / リョーフシン「ベリョフ市民の月世界旅行」 /

赤木昭三ほか編『ユートピア旅行記叢書』第9巻（ロシア・東欧 岩波書店）

〔解説〕ロシアの夢：赤木昭三ほか編『ユートピア旅行記叢書』第9巻（ロシア・東欧 岩波書店）

〔エッセイ〕比較文化／異文化コミュニケーションを学ぶ（現代日本を考えるために）（「人

文論選」第7号）

〔エッセイ〕新しい知のネットワークを！（「Campus Now」9月号）

〔エッセイ〕比較文学の手法により文化研究の最先端を学ぶ 早稲田大学 文学部 井桁貞義教授の場合（『自分にイイ大学見つけよう』リクルート社）

〔エッセイ〕現代ロシア SF の魅力（「SF マガジン」8月号 早川書店）

〔解説〕世紀末をしたたかに生きるロシア文化（ロシア・ナショナル管弦楽団日本公演パンフレット）

〔新聞記事〕ロシア文学、復権の兆し（「産経新聞」夕刊 5月24日）

〔新聞記事〕わたしの古典 「罪と罰」 今も絶えない新たな“発見”（「読売新聞」9月6日）

〔新聞記事〕激動ロシア、未来を探る 低迷日本、視線は足元 日ロ世論調査（「朝日新聞」11月7日）

〔新聞記事〕パネリストにねじめ正一さんら6人、3月に東京でゴンザフォーラム（「南日本新聞」12月4日）

1999（平成11）年

〔編集〕『週刊朝日百科 世界の文学9 プーシキン、ゴーゴリほか：ロシアの謎』（朝日新聞出版）

〔編集〕中世から近代へ、社会の大変動がロシア文学を創出した。ゴーゴリ 死せる魂たちの物語（『週刊朝日百科 世界の文学9 プーシキン、ゴーゴリほか：ロシ

アの謎』朝日新聞社)

[論文] ドストエフスキイと村上春樹 — 現代日本における〈物語〉の運命をめぐる
って (「ス

ラヴ学論叢」第3号)

[翻訳] ジチンスキイ「紙と電子・世界の現場から ロシア オン・デマンド出版で
袋小路を突破する」(「季刊・本とコンピュータ」第9号)

[エッセイ] 21世紀の大学像を求めて (「早稲田学報」1月号)

[エッセイ] ネット社会における大学の変容 (「Bit」9月号 共立出版)

[エッセイ] プーシキンとドストエフスキイ 響き合う作品たち：プーシキン生誕
200周年記念祭実行委員会編『プーシキン 1799-1999』(日本ユーラシア協会)

[エッセイ] ネットのなかのヴィソツキイ (「ユーラシア研究」第21号 東洋書店)

[新聞記事] 授業にネット、大学革新、メールで随時質問——学生同士、活発な議
論(教育) (「日本経済新聞」1月17日)

[新聞記事] 企画 ゴンザのファンクラブの支部が東京に誕生 (「南日本新聞」1月
22日)

[新聞記事] ゴンザのなぞに挑む「新スラブ日本語辞典」訳者の井桁氏招き研究会
／ファンクラブ (「南日本新聞」2月12日)

[新聞記事] 江戸中期、露日辞典を作った「ゴンザ」のなぞに迫る／東京 (「朝日新
聞」3月19日)

[新聞記事] 広がれゴンザファン／東京でパネル討論、600人参加 (「南日本新聞」3
月22日)

[新聞記事] 薩摩の「ゴンザ」知っちゃんな？ ファンクラブ発足 (「読売新聞」新
聞 西部版 夕刊 5月1日)

[新聞記事] 少子化でPRに懸命 各地でオープンキャンパス／大分 (「毎日新聞」
西部地方版／大分 8月17日)

[新聞記事] 大学の壁、距離超え 経法大・早大がネット授業 18日からスタート

／秋田（「毎日新聞」地方版 9月7日）

〔書評〕明星大学日本文化学部編『普遍文明と民族文化』（「比較文学年誌」第35号）

〔書評〕工藤正広『ドクトル・ジバゴ論攷』（「図書新聞」2006号）

2000（平成12）年

〔著書〕（共著：亀山郁夫，沼野充義，望月哲男）『現代ロシア文化』（国書刊行会）

〔分担執筆〕旧制早稲田大学露文科（『日本人とロシア語』日本ロシア文学会編 ナウカ）

〔翻訳〕（共訳：上野理恵，坂庭淳史）ソルジェニーツイン『廃墟のなかのロシア』（草思社）

〔翻訳〕マルガリータ富田『ロシア・エチケットへの旅』（ユーラシア・ブックレット4 東洋書店）

〔口頭発表〕Достоевский в японской литературе второй половины XX века.（国際ドストエフスキー研究集会 千葉大学）

〔解説〕精緻に織られた死と再生の物語（劇団「昴」公演『罪と罰』パンフレット）

〔報告〕プーシキン生誕200周年記念講演会報告（「ロシア語ロシア文学研究」第32号）

〔エッセイ〕海外文学はいまーロシア 現代ロシア文学 — 死と再生〉をめぐって（「民主文学」5月号）

〔エッセイ〕大学間ネットワーク授業から浮かぶ現代学生像（「大学と学生」7月号）

〔対談〕（ナジェージュダ東井氏と）九〇年代のロシア文学 希望の中の表現（「ロシア文化通信 群」第17号）

〔エッセイ〕자기세계만 몰입 ‘나약한 개인주의’（自分の世界だけに没頭する「弱い個人主義」）일본 신문화 탐험⑩ 오타쿠 뭔가에 지나치게 빠져있는 사람들（日本最新文化探検⑩ オタク 何かに過剰に打ち込む人々 韓国語）（「스포츠투데이（スポーツ・トゥデイ）」1月27日）

〔新聞記事〕 ネットが変えるロシア社会 自由に情報を受信し表現 新大統領へも期待と不安 (「熊本日日新聞」4月1日)

〔新聞記事〕 衛星使い早大の授業受講 18日から講座 一般の聴講可能 苫駒大 (「北海道新聞」(地方版)4月13日)

〔報告〕 国際ドストエフスキー研究集会報告 (「時事通信」8月31日)

〔新聞記事〕 筆洗 ロシアは本当にだめになったのだろうか (「東京新聞」10月30日)

〔新聞記事〕 中日春秋 ロシアは本当にだめになったのだろうか (「中日新聞」10月30日)

2001 (平成 13) 年

〔論文〕 **Иванов-Пумпянский-Бахтин.** Диалог. Карнавал. Хронотоп. №3-4 Москва.

〔著書〕 (共著: ナジェージダ東井) 『ロシア・インターネットの世界』 (ユーラシア・ブックレット 11 東洋書店)

〔著書〕 『文学理論への招待: "オンデマンド授業" の実際と大学授業の新しい可能性: 2001 年度版』 (文学・言語系演習 34)

〔論文〕 シラーとドストエフスキー (柳富子 編著『ロシア文化の森へ: 比較文化の総合研究』ナダ出版センター)

〔著書〕 ドストエフスキーと村上春樹 (木下豊房, 安藤厚 編著『論集・ドストエフスキーと現代: 研究のプリズム』多賀出版)

〔著書〕 二十世紀ロシアのハムレット (大井邦雄編著『「ハムレット」への旅立ち』早稲田大学出版部)

〔エッセイ〕 オンデマンド授業原論 (『文学理論への招待』早稲田大学)

〔雑誌記事〕 日記なるものをウェブで公開する人々 不特定多数に自分さらず快感

(「AERA」9月17日号 朝日新聞社)

[雑誌記事] 日常の中のロシア・メディア革命 (「東亜」12月号 霞山会)

[報告] 2000年度学会報告優秀賞・奨励賞の選考経過と授賞理由 (「ロシア語ロシア文学研究」第33号)

[新聞記事] 日本人の足跡 (11) ゴンザ (1718-39) 5 (「産経新聞」(東京版)1月18日)

[新聞記事] 日本人の足跡 (11) ゴンザ (1718-39) 5 (「産経新聞」(大阪版)1月18日)

[新聞記事] ロシア演劇・文学を日本に幅広く紹介 宮沢俊一氏をしのぶ会 (「朝日新聞」夕刊2月28日)

[新聞記事] 早大オープンカレッジ新設 山陽新聞カルチャープラザ 衛星通信で講座を中継 (「山陽新聞」4月22日)

[書評] アルハンゲリスキー (滝澤一郎訳) 『プリンス近衛殺人事件』 (「週刊エコノミスト」2月13日号)

[書評] 狩野亨, K.メドヴェートキン 『露和对訳現代ロシア話しことば辞典』 (「ロシア文化研究」第8号)

2002 (平成 14) 年

[論文] **Достоевский в японской литературе второй половины XX века.**

XXI век глазами Достоевского: перспективы человечества. М. Грааль.

(В.Тунимановほか46名と分担執筆)

[エッセイ] インターネット文化は花盛り — 自由な表現への渴望 (下斗米伸夫, 島田博編著『現代ロシアを知るための55章』エリア・スタディーズ21、明石書店)

2003（平成 15）年

- [監修] (共監修：饗庭孝男, 亀井俊介, 神品芳夫, 小林 章夫) 『世界文学のすじ書き — 読みたかった作品が 10 分で読める』 (宝島社)
- [編著] (共編著：藤沼貴, 水野忠夫) 『はじめて学ぶロシア文学史』 (シリーズ・はじめて学ぶ文学史 5 ミネルヴァ書房)
- [著書] 『ドストエフスキイ・言葉の生命』 (群像社)
- [編著] 『コンサイス露和辞典 第 5 版』 (三省堂)
- [著書] 「NHK テレビ・ロシア語会話テキスト」 (日本放送出版協会 2003-2004 年)
- [翻訳] マルガリータ富田 『ロシア人・生まれてから死ぬまで：その習慣・儀礼・信仰』 (ユーラシア・ブックレット 44 東洋書店)
- [エッセイ] 彩り豊かなロシア文学を読む (「出版ダイジェスト」第 1915 号)
- [エッセイ] ロシア文学史の新たな試み (「窓」第 126 号)
- [エッセイ] 『コンサイス露和辞典』第五版の編集を終えて (「窓」第 127 号)
- [インタビュー] 日本から発信するロシア文学研究の新たな視点 (『いま、最先端の研究が面白い 躍動する早稲田大学の研究活動』中央公論新社)

2004（平成 16）年

9月16日より文学学術院教授 (2013年3月31日まで)

- [論文] ドストエフスキイと黒澤明 — 『白痴』をめぐる語らい (岩本憲児編著『黒澤明をめぐる 12 人の狂詩曲』早稲田大学出版部)
- [新聞記事] 今に生きるドストエフスキイ 描いた若者群像、現代日本に酷似 (「北海道新聞」夕刊 9月1日)

2005（平成 17）年

〔編著〕『コンサイス和露辞典 第 3 版』（三省堂）

〔記念セッション〕チェーホフ『サハリン島』とその周辺（「ロシア語ロシア文学研究」第 37 号）

〔エッセイ〕異文化交流は何を生み出すの？（「新鐘」第 72 号）

〔新聞記事〕ドストエフスキー、今を射抜く——現代作家が注目、テーマ、色あせず（「日本経済新聞」10 月 1 日）

2006（平成 18）年

〔放送テキスト〕「NHK ラジオ・ロシア語講座テキスト」（日本放送出版協会 2006-2008 年）

〔論文〕ドストエフスキイと黒澤明（柳富子編著『ロシア文化の森へ：比較文化の総合研究第 2 集』ナダ出版センター）

2007（平成 19）年

〔論文〕いくつもの分岐点を越えて — 『白痴』について（「ユリイカ」11 月号 青土社）

〔翻訳〕ダニイル・ハルムス『ハルムスの小さな船』（西岡千晶 絵）（長崎出版）

〔エッセイ〕2006 年の『罪と罰』（「すばる」4 月号 集英社）

〔著書〕2006 年の『罪と罰』（大江健三郎ほか『21 世紀ドストエフスキーがやってくる』集英社）

2008（平成 20）年

〔監修〕『デイリー日露英・露日英辞典』（三省堂編修所編 三省堂）

〔編著〕電子辞書版『コンサイス露和辞典』（第5版）／電子辞書版『コンサイス和露辞典』（第3版）（カシオ）

〔著書〕『名作に学ぶロシア語：初歩から講読へ』（ナウカ出版）

〔著書〕『文化の境界 境界の文化：異文化コミュニケーション論の構想』（早稲田大学出版部）

〔論文〕ドストエフスキーと漱石 — 瞬間と他者の詩学（「國文學：解釈と教材の研究」6月臨時増刊号 學燈社）

〔エッセイ〕日本の人々のユーラシア地域への思いを映し出す大きな鏡—ユーラシア・ブックレット—（「週刊読書人」第2765号）

〔追悼文〕ソルジェニーツィンを悼む 全体主義への抵抗と告発（「信濃毎日新聞」8月9日）

〔追悼文〕ソルジェニーツィン氏を悼む 祖国愛、魂の自由追求（「中国新聞」8月14日）

〔追悼文〕追悼 アレクサンドル・ソルジェニーツィン（「図書新聞」8月30日）

〔書評〕芦川進一『「罪と罰」における復活 — ドストエフスキと聖書』（「週刊読書人」2731号）

2009（平成 21）年

〔論文〕『1Q84』とロシア文学（『1Q84 スタディーズ book 1』Murakami Haruki study books 13 若草書房）

2010（平成 22）年

〔著書〕러시아의 문학과 혁명 : 푸시킨, 도스토옙스키, 톨스토이, 체호프, 고리키（『ロシアの文学と革命：プーシキン、ドストエフスキー、トルストイ、チ

ューホフ、ゴーリキー』韓国語 底本：週刊朝日百科『世界の文学シリーズ』
(웅진지식하우스)

[翻訳] ドストエフスキー「やさしい女」(「群像」第65巻・7月号)

[翻訳] ドストエフスキー『やさしい女 白夜』(講談社文芸文庫 講談社)

[解説] 新訳 やさしい女 訳者解題 (「群像」7月号 講談社)

[エッセイ] もうひとつのあとがき 『やさしい女 白夜』(「IN POCKET」8月号
講談社)

2011 (平成 23) 年

[共著] (共著：饗庭孝男, 井桁貞義, 亀井俊介, 神品芳夫, 小林 章夫; 王淑絹訳) 『一本
讀通世界文學名著』(『世界文学のすじ書き』 中国語 台北市 商周 2011年)

[エッセイ] ロシア語・言語と文化 最近二〇年間のロシア語事情と文化 (長塚英
雄責任編集『ロシアの文化・芸術：ソ連崩壊 20年後のロシアにおける新しい傾向と
ロシア芸術の魅力の基本的特徴』生活ジャーナル)

2012 (平成 24) 年

[著書] 『ドストエフスキイと日本文化：漱石・春樹、そして伊坂幸太郎まで』(教
育評論社)

[エッセイ] インターネット文化は花盛り ― 自由な表現への渴望 (下斗米伸夫, 島
田博編著『現代ロシアを知るための60章』エリア・スタディーズ 21 再版 明石書
店)

[追悼文] 藤沼貴さんを悼む トルストイの卓抜な研究と優れた翻訳 (「毎日新聞」
夕刊 2月16日)

2013 (平成 25 年)

[著書] 문화의 경계 경계의 문화 : 이문화 커뮤니케이션론의 구상 이계타
사다요시

저/조강희 역 I 도서출판인문사 (『文化の境界 境界の文化 : 異文化コミュニケーション論の構想』 韓国語) (도서출판인문사)

[編著] (共編著: 井上健) 『チューホフの短篇小説はいかに読まれてきたか』 (世界
思想社) * 「チューホフと村上春樹」

[インタビュー] テレビドラマ『カラマーゾフの兄弟』について (ロシア連邦国営ラ
ジオ 「ロシアの声」 日本語版 3月14日)

[エッセイ] 蛍光灯の下で (『ミール・ロシア語研究所 55年の軌跡 生徒の文集』 ミー
ル文集編集委員会)

[エッセイ] 世界を目指す日本のロシア文学研究 証言・見てきたロシア文学研究の 40
年 (未来に続く道) (『ロシア研究の未来——文化の根源を見つめ、展開を見とおす』
『ロシア研究の未来』 刊行委員会)

[辞典項目] 「プーシキン」「レー尔蒙トフ」「ゴーゴリ」「ドストエフスキー」など (『岩
波 世界人名大辞典』 岩波書店)

2014 (平成 26) 年

[著書] 『ドストエフスキー』 (Century Books 人と思想 82 新装版 清水書院)